

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3272200266		
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1076-1		
自己評価作成日	平成27年2月26日	評価結果市町村受理日	平成27年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp">https://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成27年3月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームいこいの家は周囲を緑に囲まれた高台に位置し良い立地環境にあります。敷地内にある畑では利用者を主に、野菜作りを行い、その成長を楽しみ、収穫して職員と共に調理を行ったり、裏山では栗拾いや踏取りをして楽しんでいます。日常生活においては、その人らしい生活環境の設定や生活を重視し、穏やかな生活が出来るように支援しています。又、残存能力の活用ため、本人や家族の意向を尊重しながら日々、ADLの低下、QOLの向上にご利用者と同じ目線で取り組んでいます。又、外出の機会を増やし、地域イベントへの参加、ボランティアの訪問等で、地域との繋がりを重視しています。グループホームを生活の拠点としている利用者は笑顔や穏やかな表情で日々の生活を送っています。安心で安全な生活が継続できるよう職員が一丸となって支援をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成11年にオープンした隠岐で一番古いグループホーム。母体の法人の建物と道路を挟んで建ており、高台で街を見下ろせる眺めのいい恵まれた環境にある。母体の法人と共にここでの知名度は高く、部会でも中心的に、介護計画の検討や記録の検討等に取り組んでいる。普段の生活の中で、時間を見つけては外に出る機会を多く持つようしており、精神面の刺激と身体的な面でも効果을上げてきている、利用者の介護度もここ数年ほとんど変化なく過ごせており、今後に於いても、より行動的なプログラムを検討することで、個別計画の充実に取り組んでいただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本方針をつくり、スタッフ全員が共有できるよう事業所内に掲示している。又、人事考課制度を行いフィードバック等で再確認をして実践につながるよう努めている。	法人の理念をもとに基本方針が作成されている。認知症対応ということで職員の異動も最小限にし、環境の変化も少なくし、職員の考え方も共有しやすく安定した対応に繋がるように考えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには積極的に参加している。又手芸、民謡、舞踊等のボランティア団体の訪問があり地域との交流を深めている。	役場での文化行事に参加したり、陶芸やちぎり絵の指導にはボランティア利用をしたり、積極的に地域との関わりを持つよう取り組んでいる。中学生や高校生の職場体験の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折、認知症の方を抱えている家族から支援についての相談を受けることがあり、認知症の人の理解や事例を通して分りやすくアドバイスする事に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に開催を行っている。グループホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項は検討を行い、サービスに質の向上に取り組んでいる。	施設内で行った行事、研修報告などを伝えることで、意見を得ている。議題については悩むこともあるが、介護保険制度について包括からの説明の場としたり、おやつを食べながら有意義な時間になるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の研修会の参加を通して連携を行い、運営推進会議でもサービスの取り組みを報告しながら、助言を得たり協力関係を築いている。	空き情報を流すことで、利用者の紹介もある。運営推進会議には毎回参加があり、グループホーム部会でも交流しており、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会、グループホームでの身体拘束廃止検討会を組織し、指針に基づいて対応している。業務検討会でも該当しないか検討を行っている。玄関の施錠は行っていない。	安全にトイレ誘導するために夜間のみ、センサーマットを使用しているケースがある。委員会に参加したり、不定期だが話し合いの機会を持つようにしている。	いろいろなケースを踏まえ、広い意味での身体拘束について検討をいただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、施設の研修会、市町村主催の研修会において学ぶ機会を得ている。スタッフ全員が事業所内において虐待が見過ごされることがないように注意を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し、制度に関する理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、介護報酬の改定時に、契約内容及び重要事項説明書に基づいて説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者・家族と話し合いの場を設け意見や要望を聞いたり業務検討会で検討を行い、第三者委員に2、3ヶ月毎に来て頂き、利用者及びご家族の意見や要望に対応しサービス等に反映させている。	2か月に1回いこいの家新聞を作成し運営推進会議の席で家族関係者に手渡し意見を得ている。第3者委員に利用者会議に参加してもらい、生の声を聞く機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、業務検討会やミーティングにおいて、職員の意見を引き出すように努め、意見や提案はその都度検討を行い業務に反映させている。	会議の場だけでなく普段からいつでも意見が言えるようにしている。人事考課を実施し、年2回は面接も行い、意見は業務改善に生かすよう検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は法人の人事考課制度で反映させ、職場環境においては職員衛生委員会で検討を行ったり、各自が向上心を持って業務を遂行出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの評価は人事考課制度で力量の把握を行い、事業所内外で開催される研修は、なるべく多数参加をするよう促している。又、専門職としてのライセンス取得に働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島後地区グループホーム事業所交流会や隠岐地区老人福祉施設協議会が開催され同業者との交流、意見交換会や勉強会が開催されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係事業所等からの情報を基に、直接自宅訪問を行い、日常生活や性格、身体状況等を把握している。又、本人家族の施設見学を受け入れ要望等の相談に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時には必ず家族の思いや要望等を尊重し信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時の計画書作成時に本人・家族の意向を尊重し必要としている支援内容を織り込むとともに他のサービスが必要であれば対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ家庭内で暮らす者として、利用者のあるがままを受け止め、同じ目線で理解し合う姿勢を持つようにしている。又、様々な感情や日常生活の営みを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に信頼関係が築けるよう面会時や電話等で本人の変化や思いを家族に伝え、要望や提案を共に検討する機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会があったり、外出時に訪問したりと馴染みの関係が継続できるように努めている。行きつけの散髪店、喫茶店、商店等にも一緒に出掛けている。	公用車1台を利用して少人数ごとに、なじみの店での買い物や散髪、地域の祭りに参加できるようにしている。利用者の希望を聞いて家族に伝えることでなじみの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが理解し合えるよう個別に話をしたり、レクリエーションや行事、イベントを通じて関わりを持っていただいている。日常生活の中で利用者同士が助け合う場面が多く見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了(他施設へ移動)しても家族からの相談や情報を大切に経過のフォローを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のコミュニケーションや行動の観察の中で、本人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合はカンファレンスで検討会を開き、望んでいる生活の把握に努めている。	ああしたい、こうしたい、といった意見を言わない人も多くあり、その場合には家族関係者からの意見を聞くこととしている。普段のケアの中から聞き取るように職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネージャーからの情報や自宅を訪問したり、利用者のこれまでの生活環境、趣味、思い等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十束一拘束に対応しないことを心がけ、一人一人の事情や思いを個別的に受け止めて支援する態勢をつくっている。又、心身状態変化には迅速に対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、本人、家族、スタッフと現状や課題、今後のサービス内容等の検討を行い、意見や提案を取り入れた介護計画書を作成している。	利用者、家族等関係者の参加を得て、担当者会議を行っている。出席が難しい遠方の方には、事前に電話で意見を聞いて参考にしていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成し、食事、排泄等の身体状況、またその日の精神状況など日々の暮らしの様子を記録している。それらはいずれも職員が閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に対して、カンファレンスや毎日の申し送りの際に職員間で検討し、柔軟な対応ができるような取り組みをしている。必要時には介護計画書を変更し、スタッフ全員が把握し、支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の訪問や外食、文化祭や催し物への参加と図書館の利用など通して、地域との結びつきを重視し、地域社会の一員として充実した生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月1回の定期往診や、異変時にも往診を受けており、密接な関係を継続している。他科への受診時は家族に同行していただいたり、受診前後の報告や相談を行っている。	定期的な往診や夜間、緊急時にも対応可能なドクターを確保している。内科以外の科の受診は総合病院に職員が付添受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前と午後のバイタルチェックを行い、身体状況の把握を行っている。異変時があった場合は、併設施設の看護師や訪問看護師に連絡し、適切な受診や看護がうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻回に訪問を行い、主治医、看護師、家族と連絡をとりできるだけ早期に退院できるよう情報交換や相談を行う体制をとっている。入院時に連絡方法を主治医や看護師との面談により関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族及び関係者と重度化や終末期について意志等の確認を行い、隣接の他サービスの利用など本人・家族の意向を含めて地域の関係者とともに情報の共有を行いながら支援に取り組んでいる。	入所時点でここで対応可能な場合や困難な点については関係者には説明している。ここ数年看取りの方はいない。今後に於いても、法人全体で対応していくこととしており、家族関係者の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策等のマニュアルを活用し業務検討会で周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を定期的実施している。毎月小規模訓練を行い、避難経路や消火器の点検など実施している。運営推進会議で行政や地域の代表者と防災について話し合い協力をお願いしている。	定期的な避難訓練に加え、消火器の点検、避難経路の点検、避難誘導、通報訓練など毎月小規模な訓練を繰り返し行っている。道路を挟んで母体の法人があり、緊急時の支援体制は確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は声掛けやノック、カーテンの開け閉めに気をつけプライバシーの確保を徹底している。業務検討会においても職員の意志向上を図り、プライバシーを損ねていないかを常に意識しながら対応している。	施設内研修で年1回行っている。玄関には各自の表札をかけているが、家族や関係者には了解を得ている。いこいの家新聞でも各所に掲示するため、名前が出ないように配慮している。ケアの基本として意識統一するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の理解力やコミュニケーション能力に合わせた話しかけを行い、本人の思いや希望を引き出すように働きかけを行っている。常に主体性を尊重し、本人が自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や思いを尊重して、個別的な過ごし方をして頂くようにしている。入浴時にも本人の状態により、時間の変更を行ったり、食事時間の変更等1日の本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や外出時、行事などその時に応じた服装の支援を行っている。又、化粧品の購入支援、整髪については希望があれば馴染みの美容院に行ってカットやパーマをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配下膳の手伝いを職員と一緒にいる、家庭的な雰囲気の中で食事ができている。テーブルには常に花を飾り、毎食前後にはテーブル拭きを利用者がされたりと清潔感を保っている。	食材の買い物に出かけ3食当施設で作っている。包丁での皮むきなどの下準備、ごはんをよそったり、おかずを盛り付け、テーブル拭きなどできることを手伝っている。畑で収穫した野菜も使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表を参考にし、バランスのとれた食事作りを心がけている。食事量や水分量は個別の記録に記入し職員が共有できるようにしている。又一人一人の希望に添ったメニューの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを声掛けや見守りを行いながら支援している。異変時には歯科受診を行い、清潔で健康な口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の記録を使用し、排泄パターンの把握を行っている。定期的なトイレ誘導や、自力での排泄を継続できるよう見守りや排泄動作の介助を行っている。	オムツ使用者1名は定期交換している。紙パンツにパットを使用している方が多く、あて方や尿量などに合わせて使い分けたり、パターンを把握し失敗が少なくなるよう声がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫している。日中は毎日の体操やレクリエーションを行い、適度な運動を心がけている。便秘には主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や身体状況、精神状況を考慮しながら入浴を行っている。介助が必要な方には安全面に気を配り、その人に合った介助	1対1の対応で週2回を確保している。車いすで重度の方も2人介助で浴槽に入っている。平日の午前中に、希望を聞きながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を把握し、日中は作業療法、体操、音楽療法などの活動を多く取り入れ、昼夜逆転の予防に努めている。活動時と休息時のメリハリをつけ、安心できる生活を送れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能効果、その薬に対する注意事項を閲覧し、全職員が理解できるようにしている。処方の変更になった場合は、申し送り時や業務検討会等で報告を行い、服薬後の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や心身の状況に配慮しながら、掃除、洗濯、調理、畑作り、生け花、草刈、手芸など一人一人に合った役割を楽しみながら継続することができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントへの参加を行い、花見や紅葉ドライブ、ショッピングなど外出の機会を多く作っている。希望時は家族とも相談し、協力しながら支援を行っている。	年間の外出行事はほぼ決まっておられあらかじめ計画し実行しているが、日常的には天候や利用者の体調に考慮して、できるだけ外にすることにしている。車に乗るだけでも気分転換になっており喜ばれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングでは見守りを行いながら、自由に買い物ができるようにしている。レジでもなるべく自力で支払いして頂くよう声かけを行い、購買の意欲や方法手段が衰えないように心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用でき、自室でも他の方に気を使わずに話ができるようにしている。いつでも手紙やはがきを出せるよう常に備品を準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームは常に季節の花や観葉植物、利用者の作成した掲示や展示を行っている。空調設備や冬には椅子式の炬燵を使い、家庭的にくつろげ心地よく過ごせるよう工夫している。	小さめの中庭を廊下が囲んでおりぐるっと一周できる建てものになっている。デイルームには雛人形が飾られ季節感を出している。高台で近隣家屋も少なく大変静かで、吹き抜けで明るく落ち着いた雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がお互いの部屋でお茶を飲んだり、会話を楽しんだりする機会が増えるよう声かけを行っている。一人になりたい時はソファーやテーブルの位置を変えて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋には使い慣れた家具や好みのも、仏壇や位牌なども自由に置いてもらえるよう配慮している。家族との写真やアルバムなども飾り、くつろげる空間作りに努めている。	小さ目のテーブルとイスがどの部屋にも置いてありいつでもお茶が飲めるようになっている。高台で街を見渡す感じで景色がよい部屋が多く、それぞれ自分の持ち込みの物と合わせ、動線よく配置しくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットや家具などは利用者個々に応じた配置を心がけている。又、家電製品の電源コード等、生活上危険な個所に注意しながら、設備や機器を自由に使用できる工夫をしている。		